

■採択年度（タイプ・申請区分）※該当の口を■にしてください。／大学名

【ASEAN 対象】☐H23（A－Ⅱ）☐H24（Ⅰ）☒H24（Ⅱ）【AIMS】☐H25／ 名古屋 大学

■プログラム名

ASEAN 地域発展のための次世代国際協カリーダー養成プログラム

――以下、ベトナム・ラオス・カンボジア・ミャンマーに特化した内容を主にご記載ください。――

■相手大学・機関（国名も記載ください）

ハノイ法科大学、ホーチミン市法科大学（ベトナム）、王立法経大学（カンボジア）

■主な活動内容（概要）

上記 2 大学と短期（約 2 週間、単位付与）・長期（約 6 ヶ月、単位互換）の交換留学を実施している。また名古屋大学からの派遣生は、「日本法 SEND プログラム」の派遣生として、両大学に設置されている名古屋大学日本法教育研究センター（CJL）において、日本語・日本法教育支援活動に携わるなどの SEND 活動を実施している。

■プログラムの現状・課題、成功事例

（単位互換、危機管理、寮・奨学金、その他プログラムをつくる上での障害等について、できるだけ具体的に記載ください）

現状・課題

【単位互換】

単位互換に備え、事前に各大学の評価スケールなどの情報を交換した。ただ、大学によっては本学の評価スケールと差があり、段階評価を用いての単位互換が難しかった事例があった。

【寮】

派遣先大学に寮がなかったため、平成 25 年度派遣生は全員学外のアパートを契約した。学生が契約した宿舎が小規模経営だったため海外送金を受け付けてもらえず、また本予算では学生への直接払いができなかったため、各地に出張者が出るときに支払うというイレギュラーな対応をする必要があり、非常に苦労した。

成功事例

【単位互換】

大学によっては昨年度交渉が進み、成績表に素点を併記してもらうなどの工夫でスムーズに単位互換ができた事例もあった。

【現地コーディネーター、CJL との連携】

当初計画した通り、現地コーディネーター、CJL と連携し、学生が安心して留学生活を送れるよう危機管理体制を整備した。留学中に現地で派遣生が病気になった時やトラブルに巻き込まれた際に、コーディネーター等が迅速に対応すると同時に、逐次名古屋に報告が入り、どの事例も大事に至らず、無事に全学生が留学生活を終えることができた。